温暖化は室内環境改善の常識を変えます。

昨年、環境省では、地球温暖化により、感染症を媒介する昆虫・動物の分布域が広がるなど、温暖化と感染症に関するパンフレットを作成しました。

（パンフレット概要）
温暖化の進行に伴い、日本においてもデング熱を媒介する蚊の生息域が拡大するなど感染症のリスクが高まります。感染症の流行は、居住環境や公衆衛生など複数の要因によるので、温暖化すれば直ちに大規模な流行が起こるということではありませんが、私たちは、高まるリスクに備えて社会全体として注意を払うとともに、今後、一層の調査研究を進めていく必要があります。

1．パンフレットのポイント

○ 温暖化のまる進展により、日本脳炎、デング熱などを媒介する蚊など、媒介動物の分布が北方に拡大するとともに、個体数が増加する可能性がある。

○ コレラのようにまる汚染された水が原因となる水媒介性感染症は、特に上下水道の設備が不十分な途上国を中心として、温暖化が進むと水温が上がり、汚染の原因となる菌が増加し、悪影響が大きくなることが懸念される。

○ すでに、人を刺したり噛んだり、感染症を媒介するなどの“衛生害虫”の生息域が拡大していることが確認されている。例えば、強い毒を持つセアカゴケグモやどう猛なオオミツバチなど、海外から進入し、冬期の低温に弱いと言われる生物の分布が北上している。

○ 日本には侵入していないものの、世界各地で見られる感染症のうち、温暖化との関連の可能性が示唆されているものは次のとおり。
アフリカのリフトバレー熱は、蚊が媒介生物となるが、温暖化による雨量の増加により、蚊も増加し、人への感染の可能性も増加。
コレラ菌は海水中のプランクトンと共生している。海水温が上昇し、プランクトンが増殖すると、コレラ菌も増加することが予測される。

○ 日本での影響が懸念されるものは次のとおり。
日本近海で、下痢や皮膚疾患などを起こすビブリオ・バルフィニカスという菌が検出される地域が、近年北上している。
デング熱を媒介するヒトスジシマカの分布域が年々北上している。

○ 日本においては、マラリアやデング熱といった感染症が、温暖化の進展によって、ただちに大規模な流行を起こすとか、感染するというものではありませんが、温暖化がもたらす媒介生物の分布域の拡大などにより、感染リスクが高まることが考えられます

防虫・防菌・消臭で

室内有害化学物質・害虫・菌からの衛生リスクを軽減します。

温暖化・健康リスク軽減住環境

温暖化は揮発性有害化学物質の揮発力を増長させると同時に菌・害虫の分布域を広げ繁殖力を増長。人間の健康リスクと住宅環境に影響を与えます。

室内衛生環境を温暖化に対応させた

有害化学物質と害虫・菌などから赤ちゃんを守る
（森林恵MC（ひば油）・マイナス・イオン水使用）

防虫・抗菌・化学物質・異臭対策
都市住環境実現

1、防虫・抗菌・化学物質軽減「住宅」

2、防虫・抗菌・化学物質軽減「マンション・アパート」主な害虫
シロアリ・ゴキブリ・ダニ・シラミ・蚊・衣類害虫など

（森林恵 MC の成分）

天然青森ひば精油（天然香料・化粧品・薬品の原料）
天然ヒノキチオール（厚生労働省認可食品添加物）
数種の植物抽出オイル（漢方薬・野菜防虫剤等の原料）
乳化成分　数種の木材・植物抽出成分（化粧品・薬品等の原料）
その他　無機質中空多孔質シリカマイクロカプセル（国際特許）

（ひば油の 4 大効果）

① 防蟻・防虫効果･･･シロアリ・ダニ・ゴキブリ・蚊などを寄せ付けません。

シロアリ・ゴキブリに対しては殺虫作用をダニ・蚊などに対しては忌避作用を示すことが明らかにされています。

② 抗菌効果・・・カビや細菌を寄せ付けません。

ひば油は、菌種を問わず多くの菌に対して抗菌作用を示します。
ひば油の抗菌性については、数多くの報告がなされており抗菌スペクトルが非常に広いことや真菌・担子菌に特に活用性が高いことまた耐性菌の出現をほとんど許さない特徴を有していることが判明しています。

③ 精神安定効果…ひばの香りが気持ちをリラックスさせます。

ラットを用いた試験からも、ひばの香りがストレスを緩和する作用が実証されています。

④ 消臭・脱臭効果…不快な臭いを抑えます。

生活の中で発生する不快臭（アミン・アンモニア等）に対して消臭作用があることが確認されています。